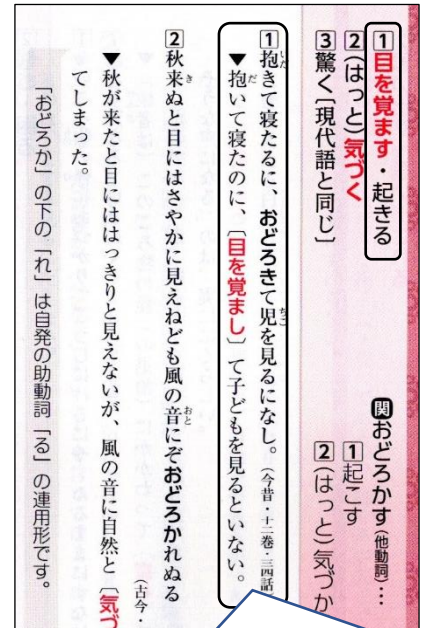


国語科 古典小テストについて

1. 古文単語小テストの取り組み方

- ①PDF ファイルをプリントアウトするか、ノートに解答欄を作成して取り組む。
- ②制限時間は従来どおり5分間で行う。
- ③解答を見て採点する。
 - ・解答は終止形でも構わない。
 - ・問われている語句について、『古文単語 315』に載っている訳語は正解としてよい。ただし、同じグループとして扱われているものに限る。同じ語句の意味でも、分けて扱われているものは区別して採点すること。（右の例を参照）
- ④1問4点で点数をつけ、名前の下に記入する。
- ⑤間違えたところは赤ペンで直しをする。
- ⑥プリントもしくはノートを撮影し、提出フォルダにアップロードする。



(例) 単語番号 17「おどろく」

①の例文が出題された場合、訳語①の「目を覚ます・起きる」はどちらでも正解。②や③の訳語は不正解。

2. 漢文句法小テストの取り組み方。

〈テストの内容について〉

今年度から新たに始める小テストです。『体系漢文』（しか）に掲載の各句法について、例文があります。その例文の、書き下し文・現代語訳で赤字になっている部分が穴埋めの形で出題されます。出題される句法は10個です。

(例) p.30 句法番号1「不～」の場合

例文 彼非敵也。

▼彼敵（ ）なり。←書き下し文

▽彼は敵（ ）。←□語訳

- ①PDF ファイルをプリントアウトするか、ノートに解答欄を作成して取り組む。
 - ・ノートの場合、問題番号・書き下し文と口語訳の区別・（ ）部分が書いてあればよい。
- ②制限時間は5分間で行う。
- ③解答を見て採点する。
 - ・（ ）の前後が通じれば、常体・敬体や現在形・過去形などは問わない。
 - ・『体系漢文』（しか）に「他の訓読」「他の訳例」が載っている場合、不自然でなければそちらでも構わない。
- ④書き下し文は完答4点、口語訳は完答6点で点数をつけ、名前の下に記入する。
- ⑤間違えたところは赤ペンで直しをする。
- ⑥プリントもしくはノートを撮影し、提出フォルダにアップロードする。

小テストの目的は、計画的かつ地道な学習と基礎力養成です。

十分な時間を掛けて範囲の学習に取り組み、きちんと時間を計って臨みましょう。

テキストを覗きたくなっても我慢です！！

また、採点は正確に、丁寧に行いましょう。

覚えきれていないものを明らかにすることが大切です。

家庭でも、自分のためになる取り組みをしてください。